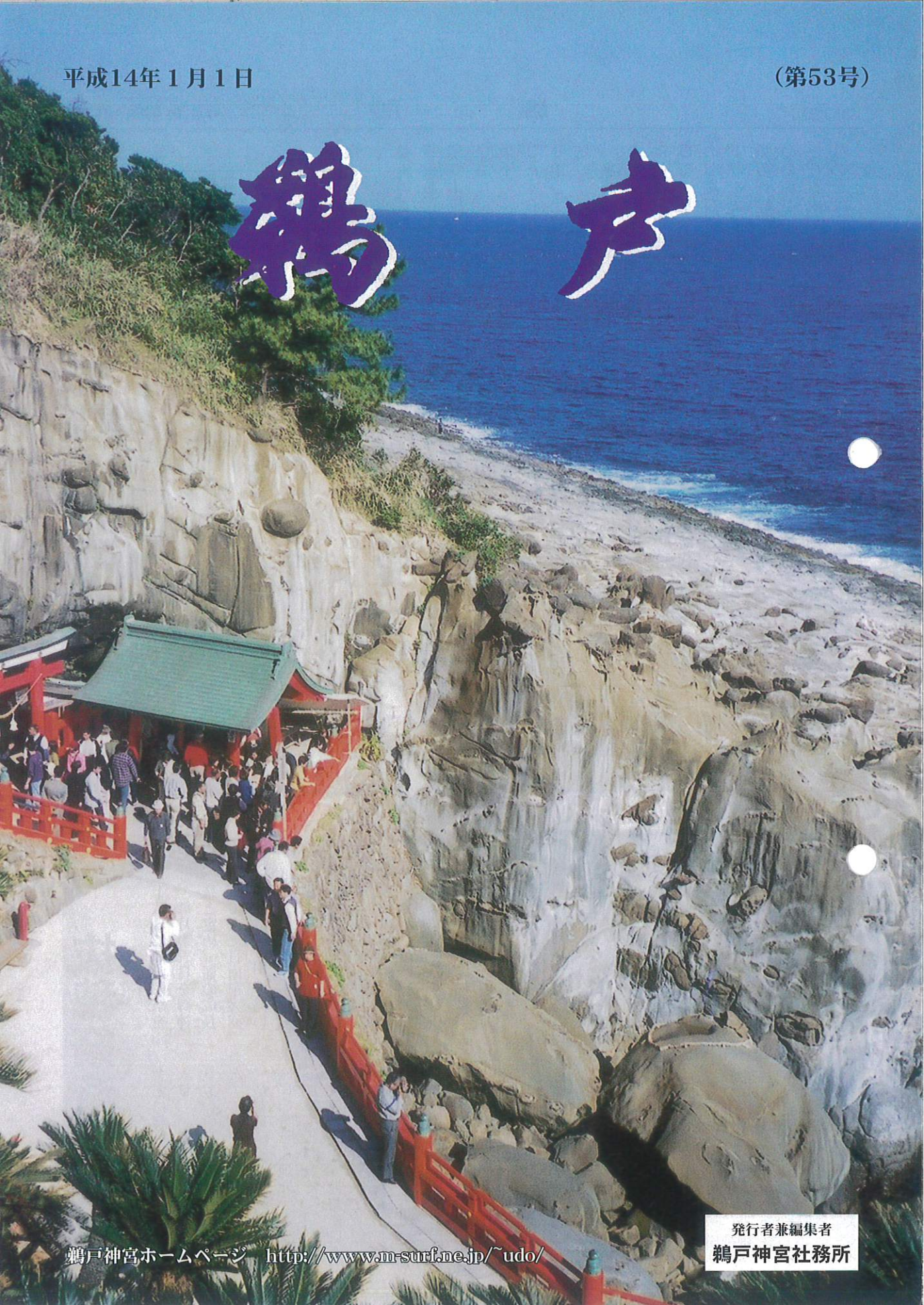


平成14年1月1日

(第53号)

鵜戸



奉祝 皇孫殿下の御誕生



謹んで新年の御祝詞を申し上げます
宮 司 杉 田 秀 清

平成十四年壬午年の新しき春、謹んで聖寿の萬歳と皇室の弥栄をお祈りし、氏子崇敬者の皆様の益々のご繁栄とご多幸を祈念し、年頭のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年は皇太子妃殿下のご懐妊の報に接し、ひたすらご安産をとお祈り申し上げてまいりました。

平成十三年十二月一日の皇孫殿下のご誕生の報は何にもまさるうれしい事で、皇太子同妃両殿下のお慶びとご安心は申し上げるまでもなく、天皇皇后両陛下をはじめ皇室のお慶びはいかばかりかと拝察申し上げます。このことは私共国民の大き

な喜びで慶祝の極みでございます。

今後は内親王殿下のお健やかな成長と皇室のますますのご繁栄をお祈り申し上げます。

さて鶺戸神宮の新年の神事は、歳旦祭、初日供祭、元始祭と、例年の如く皇室の益々の弥栄と、氏子崇敬者の皆様のご繁栄とご平安を祈る祭りから始まり五穀の豊穰、産業の発展とをお祈り申し上げます。

鶺戸神宮には平安時代より築かれた参拝路として、「鶺戸山八丁坂」があります。その石段は上下八一五段、参拝者の往還で中央部がすりへり凹んでいます。この石段のこ

とを心に留めてくださる方より石碑のご奉納があり、その碑文により鶺戸が古くより「鶺戸山まいり」として、いかに多くの参拝者があり今日に至ったかがよく理解できます。

大海原を右手に見ながら、霊橋より又、急な石段を下り、洞窟の中に入ると神鎮ります目映い朱塗のご本殿がございます。眼前には、大岩に波濤がおしよせ神秘的な自然の造形の妙を展開しています。

新しき年に朝日に映える鶺戸神宮より皆様方のご平安とご多幸を心よりお祈り申し上げます。お祈り申し上げます。

抜穂祭齋行

三月十八日に御田植祭を齋行し、毎月十五日を御神田月次祭と定め、稲の成長を祈願してきた日南市大浦の約一反の御神田において、七月二十日午前十時三十分より抜穂祭が齋行され、責任役員、総代はもとより地区の人達、小中学生など多数の参列を賜った。

祭典では齋主による抜穂の儀に続き、田長の「刈りませ」の掛け声を合図に、かすりに赤いたすき、鳥追い笠姿の地元中学生と巫子十名の刈女が、頭を垂れ黄

金色に輝いている御神田に入り、一株ずつ稲を鎌で切り取り田主が神前に供えた。

祭典終了後の稲刈りには区民の方々、地元小学生も参加して行われた。

抜穂の儀にて神前に供えられた稲穂は、十月十七日伊勢神宮で齋行された神嘗祭に縣税として奉納された。

本年収穫された新米は十八俵の豊作で、十一月二十三日の新嘗祭で御神前に供えられた。



御神田月次祭





十一月三日、明治祭並びに秋の縁日大祭が責任役員総代をはじめ多数の参列を賜り、午前十時三十分より厳肅に斎行された。

縁日大祭は古来、旧暦三月の祭礼日に農業、漁業、商工業に従事する人々が祈願し、大勢の参拝者で賑わったと伝えられており、この事を奉祝し往年の賑いを呼び戻す為、春と秋の年二回

明治祭 秋の縁日大祭 斎行

行われている。

奉祝行事として、午前と午後の二回「浦安の舞」、「鵜戸さん獅子舞」、舞楽「蘭陵王」が演舞され、参拝者を楽しませた。

参道では三日・四日の二日間、地場産品フェアが開催され、参拝者は多くの品物の中から品定めをして買い求め、終日賑わっていた。



新嘗祭 斎行

十一月二十三日、新嘗祭が宮中をはじめ全国の神社で斎行された。

新嘗祭は、新穀を神々にお供えし、収穫を感謝する祭儀で、宮中では天皇陛下が新穀を天照大御神をはじめ天神地祇にお供えになり、神恩に感謝され御自ら聞き召される。

当神宮でも午前十時三十分より厳肅に斎行され責任役員、総代、崇敬者等多数の参列を賜った。

祭典には、抜穂祭で収穫された初穂米が捧げられた。

又、日南・串間市をはじめ南那珂郡内の各地区より献穀米、献酒、献菓子等が社頭横山の如く置き高成して献供され、宮司祝詞奏上の後、鵜戸小学生三・四年生による収穫に感謝する、こども神楽が奉納された。



平成14年厄祓一覧表 (但し、数え年)

Table with columns for gender (女性/男性) and age (昭和40年代/50年代/60年代/70年代/80年代/90年代), listing厄入 and 厄明 dates.

厄入・厄祓・厄明のご案内

厄年は人生の転機にあたり、心身共に苦勞の多い年令と言われています。年の始めに御参拝を賜り御祈禱を受けられまして、本年も無病息災にてお過ごし下さいますよう御案内申し上げます。

Calendar table for平成十四年壬午年鶺戸神宮御神事(覽)(一月〜六月), showing dates, times, and festival names.

平成十四年壬午年鶺戸神宮御神事(覽)(一月〜六月)

- List of names and titles for the festival: 宮司 杉田秀吉, 禰宜 三輪謙二, 禰宜 永藤友謙, etc.

賀正

社務日誌抄

秋吉氏他9名参拝

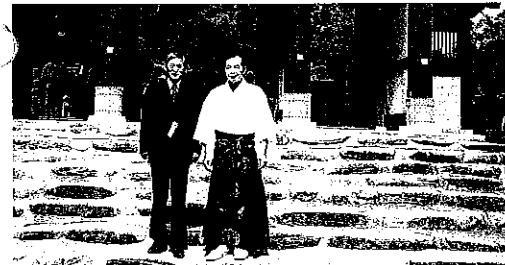


菊池神社宮司 坂本果氏他

- List of festival events from January 1st to February 26th, including 歳旦祭, 元始祭, 宮崎県大塚神社宮司 中村俊文氏他9名参拝, etc.

- List of festival events from March 18th to April 23rd, including 御田植祭, 春の縁日大祭, etc.

- List of festival events from April 26th to May 15th, including 氏子・崇敬者総代会, 氏子総代会, etc.



三徳稻荷神社宮司 佐藤重幸氏



大阪國學院卒 春日大社宮司 葉室頼昭氏他

- List of festival events from December 31st to January 8th, including 大祓式・除夜祭, 天皇祭, 皇孫御誕生奉告祭, etc.



靖國神社宮司並びに九州地区護国神社宮司一同

- List of festival events from November 22nd to November 3rd, including 責任役員会, 明治祭, 秋の縁日大祭, etc.

弾吟奉納

当神宮は、盲僧琵琶の発祥の地とされ、「鵜戸の宮居」にも、欽明天皇の御宇に祐教礼師が鵜戸の窟に流され、ここで琵琶及び琵琶で読弾する地神陀羅尼經を習い、九州各地の盲僧に伝えたと記されている。この陀羅尼經の流れをく

んでいる宮崎県延岡市の浄満寺住職、永田法順氏により十月七日、御本殿にて弾吟の奉納があった。

永田氏は琵琶盲僧の第一人者で、当日は地神琵琶を奏で「神名帳」を弾き語り、琵琶の音色とともに独特の音が響きわたった。



燈籠奉納

鹿児島県曾於郡大崎町在住の大西満典氏が、鵜戸の大神様の御恵に感謝し、燈籠を一基奉納され、眼下に日向灘が見渡せる参道横に設置された。

奉告祭は、好天に恵まれた七月三十一日、大西氏他四名の参列のもと休憩所横にて斎行され、祭典終了後に感謝状が手渡された。



七五三詣

七五三詣は、今日までの無事な発育に感謝し、今後も健やかなる成長を神様にお祈りするお詣りである。

一般的に三歳の男女は「髪置」、五歳の男子は「袴着」、七歳の女子は「帯解」の祝いとされています。

七・五・三という歳の数については、これが縁起の良い陽数であることに結びついたものであり、現在のように十一月十五日が七五三祝いの日となったのは、徳川五代將軍綱吉の子、徳松君のお祝いからとも伝えられている。

当神宮でも、十一月に入ると晴れ着姿の子供たちの元気な声が若屋に響き渡った。参道では当宮ゆかりのうさぎを、ぬいぐるみで準備。七五三参りの子供たちと記念撮影をし、写真は無料進呈した。

